

### 未来に向かって その8

こうやって、校長便りを書くのもあと少しとなってきております。もう少しで教材や、自分のためだけの文章に浸る時間がやってくると思うと、ほっとするのです。

本日は、本来なら第92回選抜甲子園の抽選日でした。11月の5日に県の21世紀枠に選ばれてから、12月の13日に東北代表に選出されるまで、長い時間の耐えて忍ぶ時間を過ごしたのち、1月24日に向けて、また長い時間を耐えて忍びました。ようやく1月24日に甲子園の21世紀枠に選出され、長い緊張と束縛から解放されたと思ったのもつかの間、甲子園での応援体制の準備と募金活動等に毎日が忙殺されました。

併せて、コロナウイルスの蔓延が次第に現実味を帯び、2月26日の首相の記者会見と臨時休業措置の具体化から3月1日の卒業式対応や、3月4日からの新制度高校入試対応にまた忙殺され、さらには3月4日の臨時の高野連会議までまた、耐え忍ぶ日々が続きました。

そして、今日で、抽選によって具体的な試合の日が決定し、高校入試の合格発表と後期選抜対応を含めながら、なんとかして耐え忍ぶ日々を超えていこうとしました。

いくら木村監督のモットーが忍耐＝Playhard だからといって、これほどまで、忍耐の時間を強いられるものなのではないでしょうか。こんな時は、おもむろに、近くの書籍を手にして、ひたすら活字の中の世界に没頭し、目先の事柄から逃避するかの如く、やれ福沢諭吉はなんだとか、内田樹はなんだとか、色川武大はなんだとかというような世界を逍遥することによって、自分の時間を取り戻すはずなのですが、すぐに現実に戻ると、さて今、何を、まずすべきかと考え、すぐに様々なところに指示を出し始めるわけですが、どうもいけません。

あとわずか18回に迫った校長便りの最後に向けて、今思うところは、長きにわたり教育界にいたいと思いきや、もはや残された時間のわずかさに戸惑いを覚えてしまうのです。

もっとどこまでも続くはずだった時間は、第4コーナーを回って残り120メートル。目の前の戦いに向けて、鞭を入れながら、ゴール板を駆け抜ける瞬間をイメージしています。

今日の抽選では、予想は大阪桐蔭か明石商業のはずでした。開会式での青い空はなくとも、ぜひ、生徒たちが思い通りの活動をしてくれればそれでよいのだとも考えています。こんな調子になることはどこかで決まっていたことだと、もう一度ねじを巻いて、鉢巻きを締めて、夏にがんばれという声を出してみましよう。